

令和4年度地域ケアケース会議における主な議論の整理

テーマ	地域課題	地域での対応方針	市レベルの課題
孤立	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、人との交流が制限され、孤立者が増加した。 ・地域特性としてマンションや団地、オートロックのマンションが多い地域において、オートロックマンションは孤立を招きやすい傾向がある。 ・自治会加入の低下やマンション等が増える中で新型コロナウイルス感染症により、地域の集まりや住民同士のつながりがより希薄した。 ・住民同士で困りごとが一見される状況でも無関心な環境がある。 ・周りの無関心が孤立を増長させている。 ・孤立化は高齢者だけでなく、若い世代でもなり得る。 ・隣人の顔が分からない、集まる機会が無い等から周りが困りごと気づかず、相談や支援に繋がりにくい。 ・誰もが活用するコンビニエンスストアやドラッグストアに対して分かりやすい相談窓口の啓発が不十分。 ・無関心な人達が関心を持てるような啓発が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数制限や感染性対策を講じ集合での行事開催や個別訪問を徐々に再開。 ・地域住民同士が気づき合う関係を作る為の地域活動の推進。 ・地域の中で孤立しない・させない為に、若い世代や高齢者と分け隔てる事のない、住民同士が気づき合える関係性を日頃から構築する必要がある。 ・地域情報誌で情報提供や地域包括支援センターにてニュースレターを作成し情報の周知を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての世代に対する孤立を防止するための対策の検討
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で高齢者に対する対面での情報発信方法が制限されたため、市政だよりやホームページでの発信方法に限定され、周知が不十分となった。 ・ICTの活用においてスマートフォンを持っていない高齢者が多く、持っても活用方法まで理解が届かず、十分な活用が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用において支援者側にも環境整備や知識不足な面があり、ICT技術の向上を図る体制の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者向けのスマホ教室やボランティアを活用した利用普及の取り組みの継続 ○支援者側におけるICT活用の技術と知識の向上
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・複合した問題を抱えている家族が増えている。 ・家族自身が抱える障がいから理解力の低下やこだわりの強さの為、高齢者支援の介入を拒否される場合がある。家族と支援者を繋ぐ為のアプローチ方法の検討が必要。 ・家族が必要とする相談窓口が明確ではなく必要な支援機関に繋がりにくい。 ・各支援機関には年齢などの支援対象となる制限があり、家族全体での支援が出来にくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶から始めるきっかけ作りのアプローチや信頼関係の構築を目指して継続した訪問対応が重要。 ・地域の見守りから家族の少しの変化を捉えることが大切であり、家族の相談窓口を明確にすることが必要。 ・支援者側も家族支援に繋がるサービスについて把握が必要であり、関係機関の取り組み内容を共有。 ・多機関との連携や重層的支援が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わかりやすい相談窓口の整備 ○「重層的支援体制整備事業」における包括的な相談支援体制の強化
救急医療情報キット	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の救急搬送時において救急医療情報キットの必要性は高いが緊急連絡先等、必要な情報が更新されていないことがある。 ・救急医療情報キットの必要性が高い独居高齢者では自身で必要な情報の記入が出来ないことが多く、家族の協力も得られない事が多い。 ・救急医療情報キットが正しく活用できていない。 ・救急医療情報キットの周知・活用状況がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「救急医療情報キットの情報があれば助かる」「情報更新が課題」との意見のもと周知・啓発の推進。 ・救急医療情報キットは65歳以上の独居高齢者と民生児童委員で同意があった方だけに配布。(民生児童委員は自主活動として対応) ・個人情報が多く含まれている為、悪用されないよう注意喚起が必要。 ・専門職向けに救急医療情報キットの活用に向けた、啓発のチラシを作成し圏域内の委員に配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ○救急医療情報キットを広く周知していくための啓発 ○救急医療情報キットの活用に向けた関係機関との課題共有や体制づくりの検討
人生会議	<ul style="list-style-type: none"> ・家族などの身近な人が急に入院し、延命処置の判断について戸惑った。 ・高齢者の中には支援者に思いを伝えているが、家族には伝えていない事がある ・看取り期など検討が必要な場面以外では日常会話から話しにくい内容であり、前向きに話し合う意識を持っていない人が多い。人生会議について話しやすいきっかけ作りが必要。 ・人生会議の認知度を上げるための普及啓発が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のことを話し合っておく、話し合った内容を書き留めておくことを認識してもらうことが必要。 ・高齢者だけでなく、家族に対しても啓発が必要。 ・人生会議をわかりやすくのアニメーション化した映像や手に取りやすい冊子を各窓口に置くことで人生会議を知る機会に繋がる。 ・人生会議に触れる機会を多く持つことが周知に繋がる為、参加機関の活動範囲内でポスターやチラシ、インターネット等の様々な媒体を活用して啓発に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人生会議について、様々な媒体を活用した周知方法の検討 ○人生会議について各世代に向けた啓発の検討